

令和6年度 村田清風関係文書調査事業 実施概要

1. 事業の概要及び目的

長門市の村田清風記念館には、一紙史料を中心とした村田清風関係文書と刀剣や掛軸などの村田清風関係資料が所蔵されています。関係文書は、幕末における長州藩活躍の基盤を作り上げた村田清風とその子大津唯雪を中心とした村田為之、光賢、清風、唯雪、光太郎の5代にわたる村田（大津）家の史料群です。清風が主導した天保の藩政改革や唯雪が活躍した幕末・明治期の政治情勢に関するものなど、史料的価値の高いものが多くあるとともに、私的史料からは長州藩における中級家臣の社会生活を窺い知ることができます。関係資料は、三隅町（現 長門市）が収集した村田清風に関する資料群です。資料には清風の愛用品や記した書物が含まれ、清風の人柄や思想を知る上で貴重なものです。

関係文書は、昭和61年（1986）から同63年（1988）にかけて調査・目録作成が実施され、平成元年（1989）に『村田清風関係文書目録』が刊行されました。しかし、本目録は、記載項目が簡素であること、綴り物の記載方法が統一されていないことなどから、現物との突合に支障をきたしています。関係資料は、昭和50年代に台帳が作成されていますが、それ以降の本格的な調査は行われていません。

本事業では、関係文書の再調査を実施した上でより充実した目録、関係資料は本格的な調査を実施した上で目録をそれぞれ作成します。それにより、文化財の適切な保存・維持管理を図るとともに、公開・活用における利便性を高め、村田清風や大津唯雪、江戸後期から明治期にかけての長州藩（山口県）の政治史、長州藩中級家臣の社会生活に関する研究の深化を目指します。



写真1 村田清風記念館（所蔵施設）

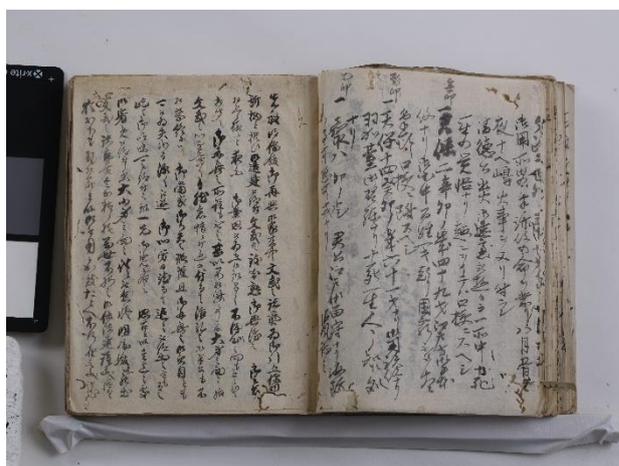


写真2 村田清風関係文書

2. 全体の事業期間

令和6年（2024）4月～令和10年（2028）3月（4か年）

3. 令和6年度事業費及び補助金額

事業費2,772,160円（国庫補助金1,758,000円）

4. 令和6年度の調査概要

(1) 村田清風関係文書調査委員会

本事業に関する指導及び進捗確認を目的とした村田清風関係文書調査委員会を組織し、現地調査に併せて委員会を2回開催しました。

開催日 令和6年9月17日・令和7年3月15日

委員構成 会長 木部和昭（山口大学教授、近世史）
副会長 池田勇太（山口大学准教授、近現代史）
委員 石田俊（山口大学准教授、近世史）
谷川みらい（東京外国語大学講師、近現代史）
上田俊成（長門市文化財保護審議会会長）
オブザーバー 文化庁職員、山口県職員

(2) 現地調査

現地調査は、池田勇太氏ら学識経験者による調査統括・指導のもと、古文書調査に精通した大学院生たちが調査・整理、長門市職員が調査補助を担当しました。今年度は2回調査を実施しました。

・第1回現地調査実績

調査期間 令和6年9月17日～20日

調査員数 14人

調査点数 503点

・第2回現地調査実績

調査期間 令和7年3月13日～15日

調査員数 15人

調査点数 471点

・令和6年度末時点での進捗

全史料点数5088点－調査済史料点数971点＝未調査史料点数4114点



写真3 村田清風関係文書調査委員会



写真4 現地調査